

2026 年度 事業計画書

(2026 年 4 月 1 日～2027 年 3 月 31 日)

情報科学の国際研究交流を推進するため、研究者海外派遣助成及び外国人研究者交流助成を行うとともに、将来を担う若手研究者の育成を図るため、情報技術に関する競技会を開催する。

助成事業

2026 年度研究者交流助成として以下のとおり事業を行う。

海外で開催される国際研究集会への派遣(研究者海外派遣助成)及び国際研究集会参加又は調査・共同研究目的での外国人研究者の来日(外国人研究者交流助成)について渡航費及び滞在費の一部を助成する。

助成件数：20 件程度

原則として、派遣地域別又は出発地域別に下表のとおりとする。

派遣地域又は出発地域	助成金額
韓国、台湾、香港	8 万円
中国、東南アジア	13 万円
ハワイ、オーストラリア	16 万円
北米、中米、ヨーロッパ	24 万円
その他	個別に決定

応募資格(研究者海外派遣助成)：

- ①大学等学術研究機関又はこれと同等と認められる機関に所属する研究者。
(大学院生も可)
- ②渡航目的が、海外で開催される情報科学に関する国際研究集会における研究発表又は招待講演を行うこと。
- ③所属機関・部署の長(大学院生は指導教官)又は当財団の役員・評議員の推薦があること。
- ④過去 2 年間に同一目的で当財団より助成を受けていないこと。

応募資格(外国人研究者交流助成)：

- ①海外における大学等学術研究機関又はこれと同等と認められる機関に所属する外国人研究者。(大学院生も可)
- ②来日目的が次のいずれかに該当すること。
 - a. 日本で開催される情報科学に関する国際研究集会において、研究発表又は招待講

演を行う。

b.日本の学術研究機関において、情報科学に関する調査研究又は共同研究を行う。

③次のいずれかの推薦があること。

a.国際研究集会の組織委員長又は論文委員長等

b.受入れ機関・部署の長、又は当財団の役員・評議員

④過去2年間に外国人研究者本人が当財団より助成を受けていないこと。

募集方法：募集要項を大学等学術研究機関に郵送するほか、当財団ホームページ上に募集要項及び申請用紙を掲載して公募する。

募集締切：2026年5月末日

募集対象派遣渡航期間：2026年4月1日～2027年3月31日（渡航済みも対象とする）

募集対象来日期間：2026年7月1日～2027年3月31日

申請方法：所定の申請用紙に必要事項を記入し、当財団に提出する。

選考方法：研究交流助成選考委員会において選考し、理事長が決定する。

採否通知：締切日の翌月末までに、申請者に採否を通知する。

交 付：助成金は渡航時期を勘案して交付する。

使 途：助成金は、助成金交付規程に従い申請書記載どおりに使用する。万一途中で変更がある場合には、予め申し出て当財団の承認を求めること。参加が中止になった場合は、ただちに返却すること。

成果報告：会議終了後または助成金交付後1ヵ月以内に報告書を当財団に提出するものとする。

成果刊行：成果について刊行する場合には、“公益財団法人 情報科学国際交流財団 (International Information Science Foundation)の助成による”旨を明記する。

競技会開催事業

国際大学対抗プログラミングコンテスト(ICPC)を開催するとともに、その関連事業を行う。

ICPCは学生のコンピュータプログラミング技術の向上を目的にACM(国際計算機学会)が1977年から毎年世界的規模で開催してきた。現在はICPC Foundation(本部;米国ペイラー大学)が運営しており、世界中から3,000校の大学・高等教育機関が参加する国際的プログラミングコンテストになっている。本財団では、毎年開催しているICPCアジア地区大会を実施するとともに、特定費用準備資金事業としてICPC Asia Pacific Championship大会を開催する。

(1) ICPC 2026 アジア地区横浜大会の開催

ICPC運営委員がホスト校を選定し、実行委員長・審判長を選任する。ICPC国際ルール及び大会ローカルルール・選抜ルールに則り実施する。昨年度と同様にホスト校を東京科学大学、実行委員長を西崎真也教授(東京科学大学)として、実行委員会・審判団・ICPCセクレタリーズ(OB/OG)を組織し運営する。大会終了後、報告書を作成し、関係各署に送付する。

- ①全国の大学及び高等専門学校の情報関係学科に参加募集ポスター等を送付し、インターネットにより参加登録を受け付ける。
- ②インターネットを利用した国内予選を行い、横浜大会本選に進出するチームを選抜する。
- ③本選は12月5日・6日に国内予選から選抜された45チームと海外からの15チーム、全60チームが横浜産貿ホール(神奈川県横浜市)において競技を行う。
初日は開会式・リハーサル等、2日目はコンテスト・表彰式・閉会式・懇親会等を行う。
- ④原則として、前大会であるICPC2025横浜大会に準じて運営する。

(2) ICPC Asia Pacific Championship 大会(APC)の開催<特定費用準備資金事業>

APCはアジアパシフィック地区における世界大会出場権を得るためのプレイオフ大会に位置付けられ、各国のAPC委員により毎年開催されている。これまでベトナム、シンガポール、台湾で行われてきたが、来年度は日本で開催することになり、東京大学を中心にAPC国際ルールに則り実施する。

- ①期間：3月3日(水)～6日(土)
- ②会場：東京大学本郷キャンパス 武田ホール(浅野キャンパス)
- ③実行委員長：山口利恵准教授(東京大学)
- ④出場チーム数：65チーム程度
- ⑤スケジュール：3月3日 Registration
3月4日 開会式・リハーサル
3月5日 コンテスト・表彰式・閉会式・懇親会
3月6日 エクスカーション(水上バス貸切クルーズ予定)

(3) ICPC 世界大会への派遣

世界大会は2026年11月にドバイ(アラブ首長国連邦)で開催予定となっている。決勝進出の権利を得た日本チームを当該世界大会へ派遣する。また、その際に併設開催される指導者会議に学生の育成及び大会運営に携わる担当者を派遣する。